

令和 2 年 4 月 13 日

教 育 長 様

研究コース
グループ研究B
校 園 コード (代表者校 園 の市費コード)
561155

代表者	校 園 名 :	大阪市立本田小学校
	校 園 長 名 :	銭 元 三 千 宏
	電 話 :	06-6581-1531
	事 務 職 員 名 :	喜 連 尋 滋
申請者	校 園 名 :	大阪市立本田小学校
	職 名 ・ 名 前 :	指 導 教 諭 今 福 明
	電 話 :	06-6581-1531

## 令和2年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	グループ研究B	研究年数	継続研究 (3年目)
2	研究テーマ	「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」の育成 ～楽しさ・学び・成長のある互恵的な学びを通して～			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を端的に記載してください。</p> <p>従来、学校で行われる「体育科」の授業は経験と勘で行われる傾向にあった。その結果、「体育科＝体力の向上」のようにステレオタイプに捉え、「体育科」のイメージを「スポ根」に象徴されるような狭隘なイメージに捉えてしまう傾向にあると考える。しかし、本来「体育科」は体力の向上のみならず、「心と体を一体と捉え、生涯にわたって心身の健康の保持増進」をめざす教科である。新学習指導要領では、「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」という言葉で、スポーツの持つ「文化的価値」がしっかり強調されている。そこには「運動の行い方・健康・安全に対する理解」「基本的な動き方や技能」「運動や健康に関する課題の発見・解決」「楽しく明るい生活を営む態度」等多くのものが含まれているのである。そこで本研究では、新学習指導要領への移行を視野に入れ、現行の「体育科」の授業を「文化的価値」の視点から捉えなおし、児童に「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」を育成することを目的とする。そして、長寿社会に生きる現在の児童にとって、生涯にわたる心身の健康の保持増進を実現するための素地作りとなるような授業を、本研究を通して提案したい。</p>			
4	研究内容	<p>継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。</p> <p>平成29年3月新学習指導要領が公示された。今回の改訂にあたっては、育成すべき資質・能力が「①何を知っているか・何ができるか（個別の知識・技能）」「②知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」「③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を生きるか（主体性・多様性・協働性・学びに向かう力・人間性）」の3本柱で示されている。学習指導要領の改訂をきっかけに、各教科において必要とされる資質・能力の具体像を描き出し、それを育成し得る新しい授業のあり方や学びの姿が模索されているところである。一昨年度研究を進める中で、「逆向き設計」での授業計画が新学習指導要領で求められている学び方を追究するうえで適していることが明らかになった。昨年度は、様々な知識やスキルを統合して使いこなすことを求める課題（パフォーマンス課題）を設定し、児童に主体的な探求活動を促すような授業や、予め評価基準（ルーブリック）を検討し、評価の観点を明確にしたうえでルーブリックを用いた評価することを意識した授業を行い、「逆向き設計」での授業モデルを提案してきた。</p> <p>今年度はこれらに加えて、「楽しさ・学び・成長・互恵的な関係」をキーワードとし、本研究グループでめざす「新しい体育科学習」を目指して研究を進めていく。「楽しさ・学び・成長・互恵的な関係」とは以下のように考えている。</p> <p>○「楽しさ」全ての児童が安心して参加でき、仲間と一緒に同じ目的に向かって活動する中で「運動の本質（本質的な問い）」を味わえる</p> <p>○「学び」見通しをもった学習や自己の学習の振り返りを積み重ねながら、単元でねらう「運動の本質（本質的な問い）」に迫る活動</p> <p>○「成長」学習（単元・毎時間）の前後で「運動の本質（本質的な問い）」に対する考え方が変わる</p>			

		<p>○「互恵的な関係」仲間と一緒に、お互いに支えあいながら同じ目的に向かって活動する また、体育科を研究する上で体力の向上や生涯にわたる心身の健康の保持増進について考えることも欠かすことができない。「規則正しい生活や休養・睡眠」「栄養バランスの良い食事と適度な運動」等の生活習慣の確立が大切である。これらのことを保護者にも啓発し、学校と家庭とが協力して「生涯にわたる豊かなスポーツライフ」「心身の健康の保持増進」が実現するよう研究を進める。 本研究の実践は児童が自分自身の課題や成長を客観的に捉えることにもつながり、生涯にわたって学び続ける児童の育成には欠かすことのできない力である「メタ認知力」の育成にもつながる研究である。「心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上」に寄与し得る研究としていきたい。</p>
--	--	--

研究コース

グループ研究B

代表校校園コード

561155

代表校園

大阪市立本田小学校

校園長名

銭元 三千宏

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>4～5月・前年度の成果と課題を見直し共通理解し、理論・研究の進め方を再検討する。 ・研究員を通じ所属校に協力を呼び掛け、実践・検証ができる環境をつくる。</p> <p>6～2月・体育科で先進的な研究をしている学校・教育機関の研究授業・研究大会に参加意見交流を行い、得た知識・考え方をグループで共有し、研究を進める。 ・研究員と打合せを行い(月1回程度)、研究テーマや研究の進め方について共通理解を、指導案の検討・検証授業を進める。検証授業実施前後でアンケート調査等を実施し、児童の変容を確認する。</p> <p>夏休み・様々な研修会・研究会に参加し、見識を深めると共に、研究内容を広める。 ・体育科の実技研修会や理論勉強会を行い、研究員自身の実践力の向上を図る。</p> <p>9～11月・公開授業・検証授業を行い、参会者と共に授業の討議を行い研究を検証する。 ・アンケート結果等から児童生徒の変容を考察し、研究の成果や課題を分析する。</p> <p>10～12月・指導栄養教諭による「栄養と運動」や養護教諭による「休養(睡眠)と運動」の授業を行い、栄養教育や保健教育と体育科教育との連動を図る。</p> <p>11月・筑波大学附属小学校より講師を招聘し「体育科公開授業・研究会」を行い、研究を広める。また、参会者や講師との討議を通して研究を深める。</p> <p>1月・西区教員研究発表会で研究発表を行い、3年間の研究の成果を広める。また、参会者や講師先生からご意見・ご助言をいただき研究を深める。</p> <p>2～3月・2年間の研究内容を紀要にまとめ、学校ホームページにて公開し一般に広める。</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】 先進的な体育科の学習の在り方を指導者が学ぶことにより、体育科の授業を充実させることができ、児童が基本的な動きや技能を身に付けられる。 《検証方法》 高橋らの診断的・総括的授業評価アンケート及び、形成的授業評価アンケートを実施し、「体育科授業では、いろいろな運動が上手にできるようになります。(動き技能上達)」についての肯定的な回答児童の割合を85%以上にする。</p> <p>【見込まれる成果2】 仲間と共に運動に親しみ、フェアプレーを大切にする児童の育成を図ることで、楽しく明るい生活を営もうとする児童を育成することができる。 《検証方法》 高橋らの診断的・総括的授業評価アンケート及び、形成的授業評価アンケートを実施し、「体育科授業では、みんなが楽しく勉強します。(運動に親しむ)」「体育科授業では、ゲームや競争をするとき、ずるいことや卑怯なことをして勝とうとは思いません。(フェアプレー)」についての肯定的な回答児童の割合を85%以上にする。</p> <p>【見込まれる成果3】 運動や健康に関する課題を児童自らが見付け、その解決に向けて筋道を立てて練習や課題解決について話し合うことで、コミュニケーション能力や論理的な思考力を身に付けようとする児童を育成することができる。 《検証方法》 高橋らの診断的・総括的授業評価アンケート及び、形成的授業評価アンケートを実施し、「体育科授業では、どうしたら運動が上手くできるかを仲間と共に考えながら勉強しています。(論理的思考)」「体育科授業では、自分のめあてを持って勉強します。(めあて・課題の設定)」について、肯定的な回答児童の割合を85%以上にする</p>

研究コース

グループ研究B

代表校校園コード

561155

代表校園

大阪市立本田小学校

校園長名

銭元 三千宏

7	研究成果の共有方法	◆研究発表【必須】 報告書提出日（令和3年2月22日）までに必ず行ってください。			
		○研究発表の日程・場所（予定）			
		日程	令和 3 年 1 月 13 日	場所	西区教員研究発表会
		◆代表校園HPでの共有【必須】			
8	代表校園長のコメント	他の共有方法を計画している場合は記載してください。			
		年間通じて複数回の授業研究会・研修会を行い、効果的な指導方法を市内外の教職員に伝え、研究内容を共有する。また、授業研究会・研修会では、大学教授や筑波大学附属小学校の教諭を招聘し、指導助言をもとに参会者と討議することで研究を深化・共有する。			
		本年度より本格実施される学習指導要領は資質・能力の3つの柱が示されている。しかし、教育現場の体育科の指導は「運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、その技能を身に付ける」という体育科の知識・技能に終始しがちであった。「自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える」という思考力・判断力・表現力や「運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器具の安全に気を配ったりする」学びに向かう力、人間性の醸成はややおろそかになる傾向があった。本研究は3年目を迎えるが、本研究の特徴は、体育科の資質・能力の3つの柱をキーコンピテンシーととらえ、それをカリキュラムのゴールとして設定し、「逆向き設計」論でアプローチすることにある。思考力・判断力・表現力や学びに向かう力、人間性なども定量的に評価を行いにくい領域についてもルーブリックを研究し、児童の学びや教師の授業、そしてカリキュラム改革に寄与するように計画されている。本市教育に有益であると考えている。			